

神経内科

■診療科長 塩見 一剛

■研修実施担当者 望月 仁志

教育施設として認定を受けている学会

日本内科学会認定制度教育病院、日本神経学会認定教育施設、日本老年医学会認定施設

診療科の概要

神経内科は、脳とそれに連結する脊髄、末梢神経・自律神経、筋肉という人体で最も複雑で重要な機能を担う臓器を対象としています。

頭痛、めまい、しびれ、物忘れ、痛みなど日常診療でよく遭遇する疾患と、パーキンソン病や筋

萎縮性側索硬化症などの神経変性疾患、脳卒中、髄膜炎・脳炎などの救急疾患と非常に幅広い内科をカバーしていることが大きな特徴です。そのため、専門性のある総合医、総合力のある専門医の育成を目指しています。

研修症例の特徴

初期臨床研修の到達目標で経験すべき神経疾患をほぼ経験できます。

担当症例は神経変性疾患のような慢性的な疾患から、脳卒中、髄膜炎・脳炎などの緊急度の高い疾患や重症症例もあり、救急対応や集中治療管

理まで幅広く経験できます。

また頭痛、しびれ、痛みなどの一般的に多くみられる症候や意識障害、けいれん・てんかん発作などの主要症候についても経験することができます。

研修目標

【一般目標 (G10)】

医療チームの中心的役割を担う医師となるために、脳血管障害、髄膜炎・脳炎などの中枢神経感染症、意識障害、けいれん・てんかんなど緊急性の高い症例、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、認知症などの神経変性疾患、免疫性の脱髄疾患・末梢神経疾患・筋疾患、筋ジストロフィーなど幅広く経験することで、基本的な臨床研修を主治医として実践し、臨床医として必要な基本的知識と手技、患者の心理・社会的問題を理解する姿勢を身につける。

【個別行動目標 (SB0s)】

- 病歴や神経学的所見から、局在診断、病因診断を呈示できる。
- 疾患について基本的知識を取得し治療方針について検討できる。
- 静脈採血、血管確保、動脈採血などの基本手技が施行できる。
- 診療録を正確に遅滞なく記載できる。
- 担当した症例をまとめ、学会などでプレゼンテーションできる。
- 文献検索を行い、科学的根拠に基づいた総合判断ができる。
- 患者や家族の心理を理解し、患者の社会的問題を解決できる。
- 適切な時期に、必要な医療スタッフに相談することができる。

研修方略

【指導医および指導体制】

研修医1人に対し常に4～5人以上の入院患者を受持研修医として担当します。

チーム指導を行っており、最新のEBMに基づいた診療の意思決定過程が習得できるような臨床教育を心がけています。また、専門医制度に対応

した症例配分を行います。

週1回症例検討会を開き、担当症例のより深い理解を行うと共にプレゼンテーションスキルの向上も目指しています。

【勉強会やカンファレンスなどの研修教育活動】

カンファレンスなどで論文抄読会が行われ、批判的な論文の読み方や論文作成時のポイントなどを上級医が指導しています。

また放射線科との画像カンファレンスや県内の神経内科医が集まって症例検討する神経内科

懇話会も年4回行っています。

診療の質の向上やプレゼンテーションスキルの向上のため、学会や研究会での症例発表を推奨しています。

【週間スケジュール】

- ・ 毎日朝8時15分と夕方17時に当直医師と主治医との申し送りが行われます。
- ・ 神経カンファレンス・神経回診：毎週月曜日15時開始
- ・ 神経回診：毎週金曜日15時開始
- ・ 神経生理学的検査；毎週木曜日14時から（ただし、必要時には随時検査を行います）
- ・ 神経放射線カンファレンス：月1回、月曜日の18時から
- ・ その他、髄液検査などベットサイドでの検査は随時行っています。

研修評価

○ オンライン卒後臨床研修評価システム（EPOC）による研修実施内容の評価（観察記録）が行われます。

指導医・先輩医師からのメッセージ

神経内科は救急での入院症例が入院患者全体の3割を占めます。脳炎、けいれん重積、脳卒中などの救急患者と、慢性疾患の診断治療のトレーニングができます。神経内科の研修を通じて、内科全般に対する研鑽を積むことが可能です。

神経内科を苦手とする方も是非一度経験して頂ければ、学ぶ楽しさをお伝えできると考えております。当科での診療を体験してみてください。

（神経内科科長 塩見一剛）

